

## ◆ HPV ワクチン定期接種の機会を逃した方へ、

## 「キャッチアップ接種」のお知らせ ◆

HPV ワクチン定期接種の機会を逃した方へのお知らせです。

下記の2つに当てはまる方は「キャッチアップ接種」を受けることができます（令和7年3月31日まで）。

- ①平成9年度生まれ～平成18年度生まれの女性
- ②過去に HPV ワクチンの接種を3回受けていない

HPV ワクチンの接種は3回接種が標準で、全額自己負担の場合は少なくとも5～6万円の費用がかかりますが、キャッチアップ接種では公費負担で接種ができるので、是非この機会に HPV ワクチンの接種をご検討ください。

Q. 通常の定期接種の対象年齢（高校1年相当まで）を過ぎても、接種の効果はありますか？

A. 16歳頃までに接種するのが最も効果が高いですが、それ以上の年齢で接種しても、ある程度の有効性があることが、国内外の研究で示されています。

なお、定期接種の対象年齢を過ぎてからの接種について、明らかな安全性の懸念は示されていません。

（※）ワクチンが子宮病変を予防する有効性はおおむね16歳以下の接種で最も高いものの、20歳頃の初回接種まではある程度有効性が保たれることや、性交経験がない場合はそれ以上の年齢についても一定の有効性があることが示されています。性交経験による HPV 感染によって、ワクチンの予防効果が減少することが示されていますが、性交経験がある場合でも、ワクチンの予防効果がなくなってしまうわけではありません。

Q. 過去に HPV ワクチンを1回または2回接種した場合にも、残りの回数を公費で受けられますか？

A. 1回接種したことがある方は残り2回、2回接種したことがある方は残り1回、公費で接種を受けられます。過去に HPV ワクチンを受けた時から時間が経過している場合でも、接種を初回からやり直す必要はなく、残りの回数の接種（2、3回目または3回目）を行ってください。

なお、HPV ワクチンは、原則、同じ種類のワクチンを用いて3回（※）接種することとなっています。

（※）シルガード9は、15歳未満の方は接種回数が異なります。

Q. HPV ワクチン接種後に副反応はありますか？

A. HPV ワクチン接種後に見られる主な副反応として、発熱や接種した部位の痛みや腫れ、注射による痛み、恐怖、興奮などをきっかけとした失神などが挙げられます。

Q. HPV ワクチン接種後に気になる症状が出た場合、どこに相談すればよいですか？

A. 接種後に体調の変化や気になる症状が現れたら、まずは接種を行った医療機関などの医師にご相談ください。また、HPV ワクチン接種後に生じた症状の診療を行う協力医療機関をお住まいの都道府県ごとに設置しています。協力医療機関の受診は、接種を行った医師又はかかりつけの医師にご相談ください。

なお、HPV ワクチンは合計2回または3回接種しますが、1回目または2回目の接種後に気になる症状が現れた場合は、2回目以降の接種をやめることができます。

その他のQAが気になる方はこちら（厚生労働省 HP）

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/hpv\\_qa.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/hpv_qa.html)

# 関連情報・パンフレットなど

## ●HPV ワクチンの定期予防接種について（東京都保健医療局 HP）

<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kansen/hpv.html>

## ●HPV ワクチンの接種を逃した方へ～キャッチアップ接種のご案内～（東京都保健医療局 HP）

<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kansen/hpvcatchup.html>

## ●キャッチアップ接種リーフレット（厚生労働省 HP）

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000918718.pdf>

## ●9 価ワクチン接種のお知らせリーフレット（キャッチアップ版）（厚生労働省 HP）

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001073361.pdf>

キャッチアップ接種リーフレット

2023年3月改訂版

【平成9年度生まれ～平成18年度生まれ】までの女性へ

大切なお知らせ

HPVワクチンの接種を逃した方に  
接種の機会をご提供します

※平成9年度生まれ～平成18年度生まれ（誕生日が1997年4月2日～2007年4月1日）までの女性の中に、小学校6年から高校1年の間に、HPVワクチンの接種の機会を逃した方がいらっしゃいます。  
※まだ接種を受けていない方に、あらためて、HPVワクチンの接種の機会をご提供します。

このご案内は、既に接種を受けた方にも届くことがあります。  
接種を受けたかどうかは、母子健康手帳などでご確認ください。

厚生労働省  
Ministry of Health, Labour and Welfare

9 価ワクチン接種のお知らせリーフレット  
（キャッチアップ版）

2023年3月改訂版

令和5(2023)年4月より  
「HPVワクチン」  
の接種の機会を逃した方も  
9 価のワクチンを公費で  
接種できるようになりました

※本記事で接種できるのは令和7(2025)年3月31日までのみです。接種される方は、お早めに接種の機会を逃さずしてください。

Q 「HPVワクチン」とはなんですか？

A HPVワクチンは、子宮頸がんの原因となる、ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染を防ぐワクチンです。HPVワクチンには、9 価のワクチンのほかに、2 種類のワクチン(2 価のワクチン、4 価のワクチン)があります。どのワクチンも接種する場合は、医師にご相談ください。

Q 9 価の HPV ワクチン(9 価ワクチン)とは、どのようなワクチンですか？

A HPVにはいくつかの種類(型)があり、9 価ワクチンは、このうち9 種類の HPV の感染を防ぐワクチンです。中でも、子宮頸がんの原因の80～90%を占める、7 種類の HPV の感染を予防することができます。  
※16 価、19 価、31 価、33 価、45 価、52 価、58 価

Q 9 価ワクチンの接種後に副反応はありますか？

A 9 価ワクチンの接種後には、右表の副反応が起こることがあります。  
接種後に体調の変化や気になる症状が現れたら、まずはワクチンを受けた医療機関などの医師にご相談ください。

日本人女性の子宮頸がんにおける HPV の種類(型)の割合と、ワクチンで予防できる割合

HPV 型別	割合(%)	ワクチンで予防できる割合(%)
HPV 16 型	約 18%	約 81.0%
HPV 18 型	約 14%	約 81.0%
HPV 31 型	約 10%	約 81.0%
HPV 33 型	約 8%	約 81.0%
HPV 45 型	約 6%	約 81.0%
HPV 52 型	約 4%	約 81.0%
HPV 58 型	約 3%	約 81.0%
その他	約 41%	約 90.7%

接種後に現れる可能性のある症状

発生頻度	現れる可能性のある症状
50%以上	接種後痛み
10～50%未満	接種後腫れ、紅腫(赤み)、腫脹
1～10%未満	注射部位の痛み(注射後しばらくして少くなく軽減)、悪心、下痢、頭痛(かみみ)、発熱、悪寒、肉炎(かぶれ)、倦怠感
1%未満	嘔吐、発熱、めまい、めまい、吐き気、血腫*
頻度不明	顔面浮腫(顔)に対して悪寒が強い、呼吸困難、気管炎

※アレルギー(アレルギー)の症状 ※ワクチン接種した後の経過観察

あなたと関係のある「がん」があります

- 子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんです。日本では毎年、約11万人の女性が子宮頸がんにかかり、約2,900人の女性が子宮頸がんで亡くなっています。
- また、若い年齢層で発症する割合が比較的高いがんです。患者さんは20歳代から増え始め、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう(妊娠できなくなってしまう)人も、1年間に約1,000人います。日本では、25～40歳の女性のがんによる死亡の第2位は、子宮頸がんによるものです。
- HPVの感染を防ぐことで、将来的に子宮頸がんを予防できると期待されていますが、ワクチンで防げないHPV感染もあります。子宮頸がんを早期に発見し治療するため、20歳以上の方は、2年に1回、子宮頸がん検診を受けることが大切です。

平成9年度生まれ～平成18年度生まれ（誕生日が1997年4月2日～2007年4月1日）の女性の中に、小学校6年から高校1年の間に、接種の機会を逃した方がいらっしゃいます。また接種を受けていない方に、あらためて、HPVワクチンの接種の機会をご提供します。

9 価の HPV ワクチンについてより詳しい情報は、こちらをご覧ください。

厚生労働省  
Ministry of Health, Labour and Welfare

詳しい情報は、こちらをご覧ください。